

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 12 月 3 日 10:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,500～45,250 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～19,700

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～156.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.071

エリオット波動とは

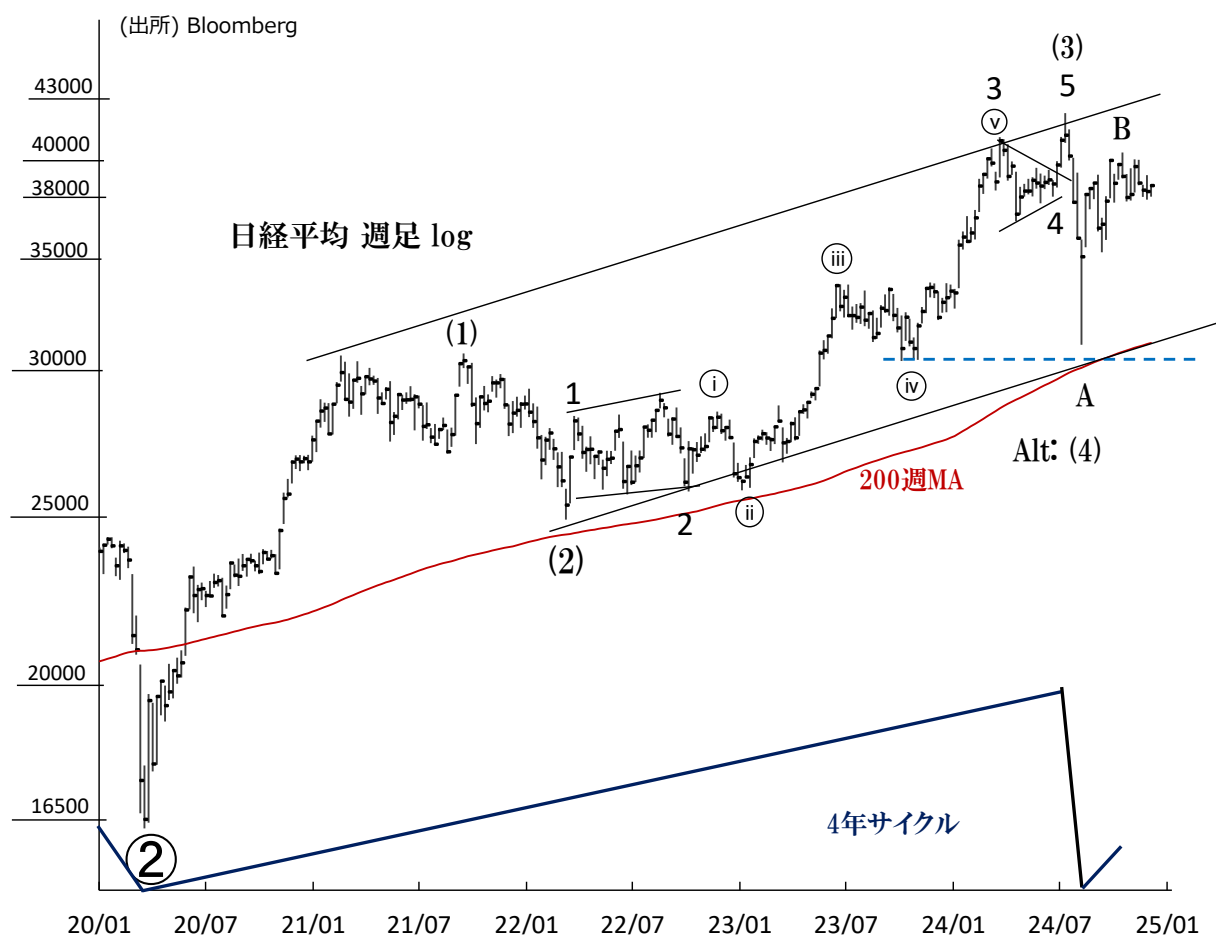
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

あるいは、8 月安値で第(4)波は終わり、そこから第(5)波の上昇が進行中かもしれません。

どちらの見方によっても、**来年の日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い**、と思われます。

もっとも日経平均予想 EPS は、2514 円(10/5)で頭打ちとなっています。直近安値 2425 円(11/14)からは持ち直しの動きがみられますが(12 月 2 日は 2454 円)、今後はどうでしょうか。この先製造業を中心に業績見通しに陰りが生じると、**第(5)波は 4 万 2000 円台半ば～後半にとどまる可能性**があります。

第(5)波の終点高値は、最短ですと 2025 年 2 月頃に付けてしまうでしょう(節分天井パターン)。



【日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)カウント)

31,156 円(8/5 安値)からの上昇は、第(4)波中 B 波によるリバウンドです。それは 40,257 円(10/15 高値)を以て終了した、とみられます。

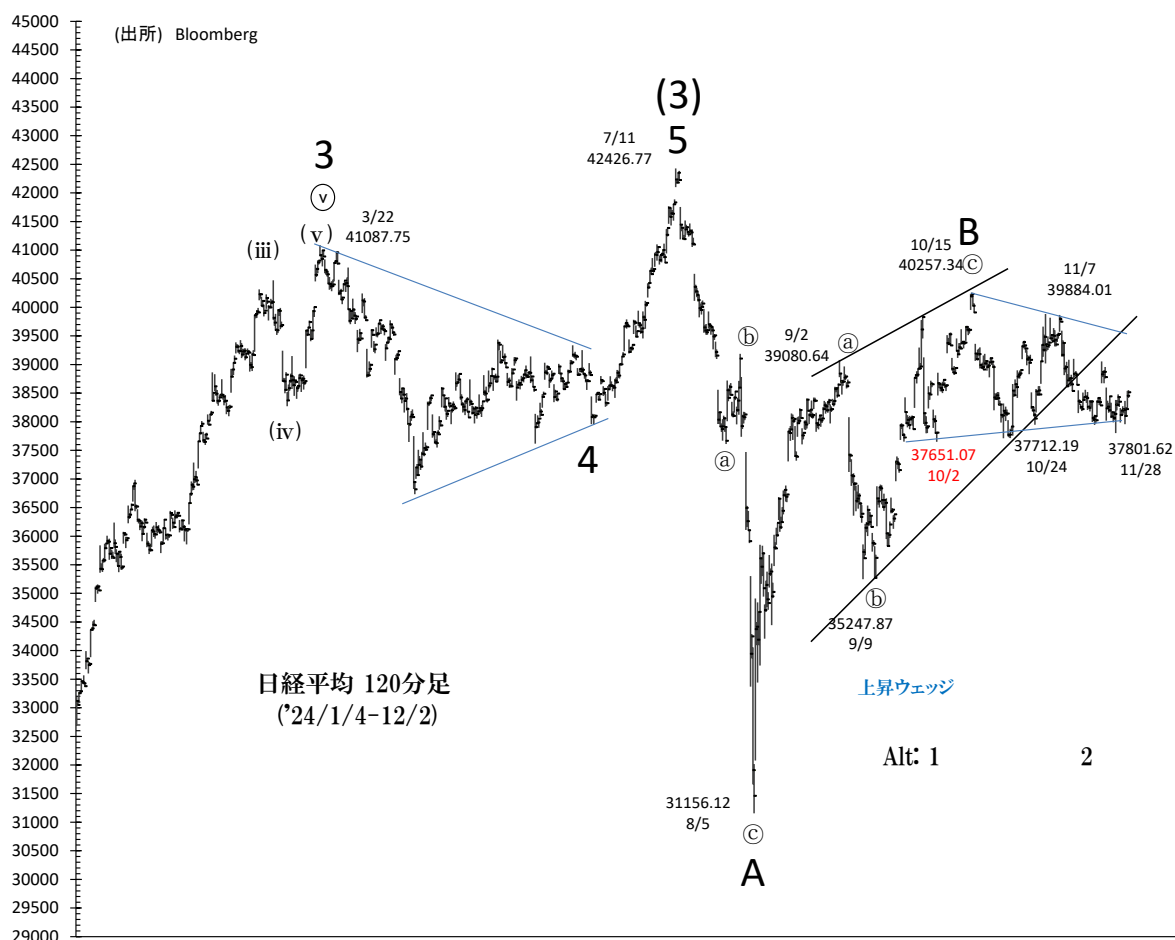
この見方に基づくと、日経平均はまもなく急落局面に入り、年明けにも 35,247 円(9/9 安値)を下回るでしょう。それは 8 月の「一番底」に次ぐ「二番底」になるでしょう。

その後は数カ月間のもみ合いとなりますが、その間に日経平均は上昇マグマを蓄え、もみ合いを上放れるでしょう。それは第(5)波による、当面最後の上昇トレンドとなります。

(オルタナティブ(代替)カウント)

31,156 円(8/5 安値)は第(4)波の終点底であり、そこから第(5)波による上昇が進行しています。

この見方によると日経平均は「二番底」を付けることなく、じり高基調を続けるでしょう。そんな中、25 年の前半にも高値更新がありそうです。



【時間足 エリオット波動分析】

当面の日経平均の見通しは以下の二通りです。

[プリファード(優先)カウント] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり、そこからは C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。

37,651 円(10/2 安値)を下抜くことで、ネックラインからの下放れが確認されます。そうすると C 波による下落基調が鮮明になるでしょう。最終的に C 波は 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月安値に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。

「二番底」の水準については、フィボナッチ比率から以下の水準に注目できます。

[34,632 円]…B 波の上昇に対し 61.8%押し水準

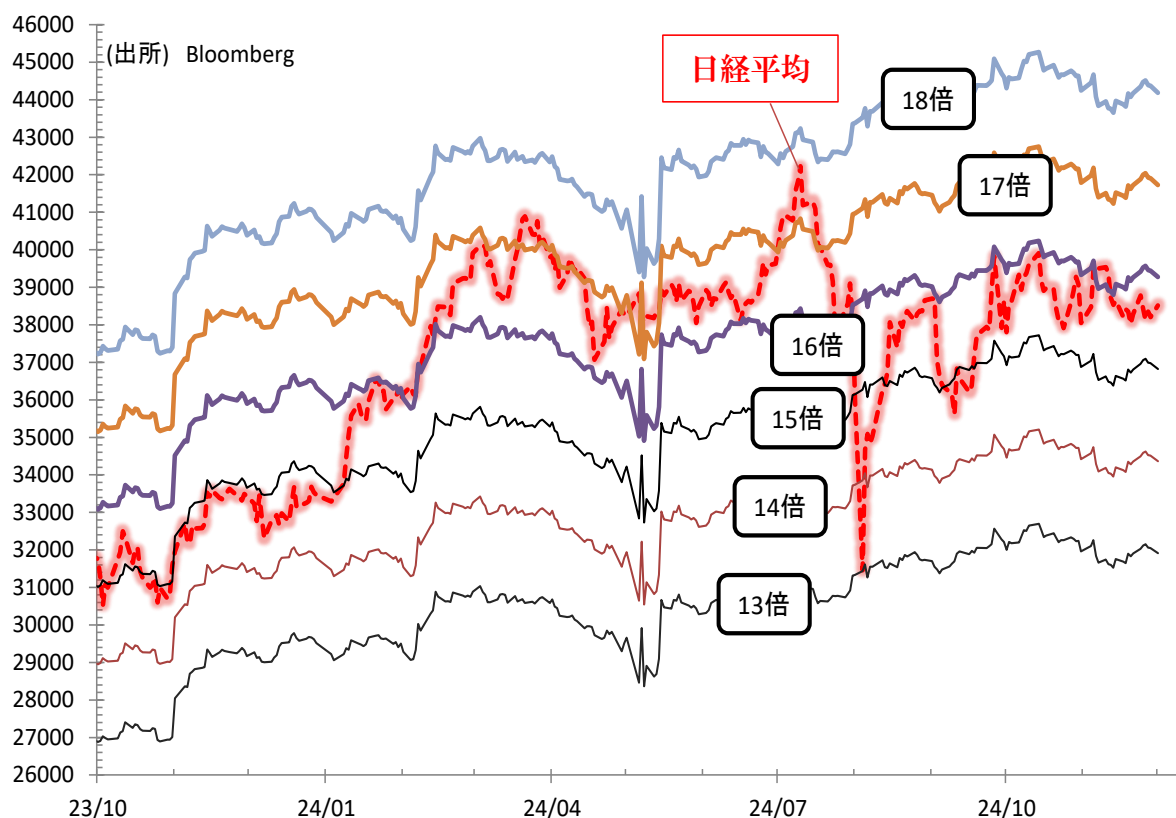
[33,304 円～33,103 円]…同 76.4%～78.6%押し水準

[オルタナティブ(代替)カウント] 第(5)波は「エンディング・ダイアゴナル」

31,156 円(8/5 安値)からは第(5)波による上昇であり、そのパターンは波の重複が目立つ「エンディング・ダイアゴナル」です。

39,884 円(40,257 円(11/7 高値)を上抜くと、9 月以降の保ち合い(トライアングル)から上放れ開始となり、42,426 円(7/11 高値)を試す強気の展開になりそうです。

[予想 PER 別の日経平均水準]



NY ダウ



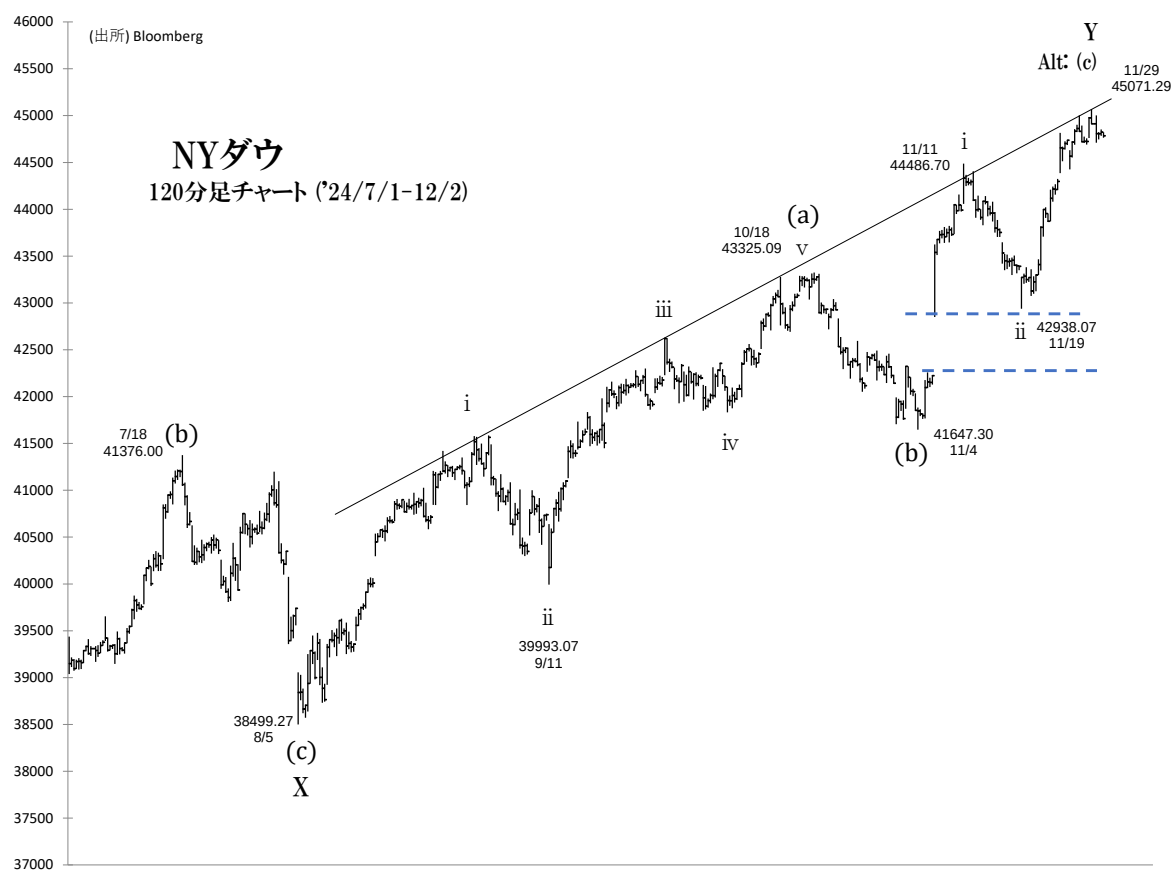
【日足 エリオット波動分析】

22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波は、[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]により展開しています。そのうち 38,499ドル(8/5 安値)を起点とする上昇は、Y 波(ジグザグ)に相当します。

11 月 29 日に NY ダウは、一時 45,071ドルへ上昇しました。

長期的なチャネルラインをみると、[4 万 6000ドル]付近に重要なチャート節目が存在しています。実際にそこまで上がるかはわかりませんが、さらなる上昇がある場合の目安として注目です。

なおこの Y 波を終了すると、NY ダウは(C)波による下落に入っていくでしょう。41,647ドル(11/4 安値)割れが(C)波入りの証左となります。この(C)波は 22 年 10 月以降で一度もなかった、最大スケールの調整になるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

38,499ドル(8/5 安値)から 43,325ドル(10/18 高値)までは(a)波による上昇、そこから 41,647ドル(11/4 安値)までの下げは(b)波。そして、足元は(c)波による上昇とみられます。

(c)波は(a)波と同じように五波構成(i 波～v 波)になるとみています。そのうち、42,938ドル(11/19 安値)からの上昇は第 iii 波に位置付けられます。

4 万 6000ドルより下位のチャート節目は[45,244ドル]です。これは 22 年 1 月からの(A)波下落と、22 年 10 月からの(B)波上昇が、1:2 になる水準です。

上記強気見通し継続のためには、米大統領選での結果を受けて生じた 11 月 5 日～6 日のギャップ (42,258ドル～42,850ドル)を埋めないことが最低条件です。

仮にギャップが埋められると「トランプ・トレード」終了が証左され、より大きな調整に—(C)波の調整に—備える必要があるでしょう。



[19,996]…21 年 11 月～22 年 10 月の(A)波下落幅と、(B)波上昇幅が、1:1.618 になる水準

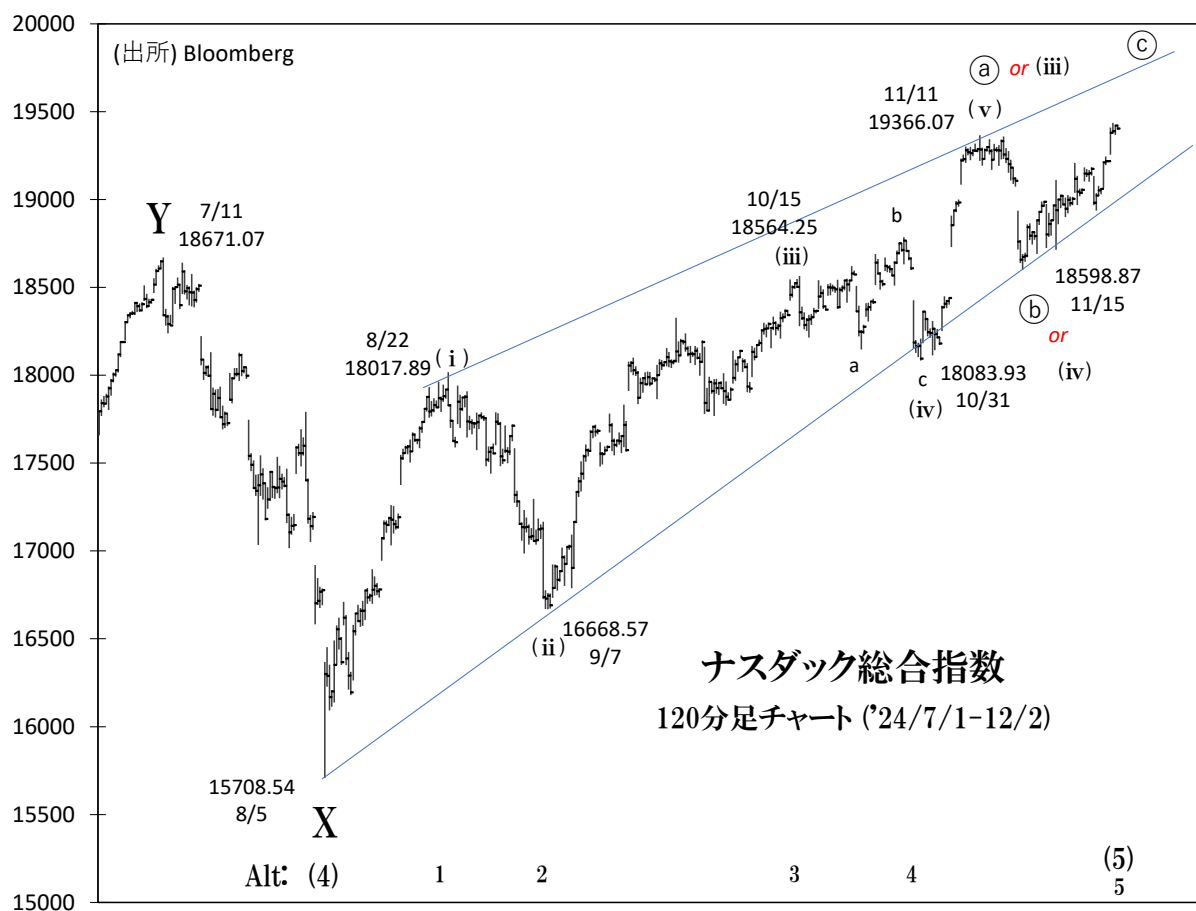
15,708(8/5 安値)から、三番目のジグザグ(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)が進行中です。

波動構成は既に©波まで進み、22 年 12 月以来の(B)波による上昇は終盤とみることができます。

(B)波のパターンは[ダブル・ジグザグ]+[ダイアゴナル]。15,708 からは[ダイアゴナル]による Z 波であり、それは既に終盤戦です。**強気相場の終了が近い、とみられます。**

22 年 12 月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わったか、終わりつつあります。

これによれば 25 年以降ナスダックは、優先カウントよりも深く、長い調整局面を迎えるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

12月2日、ナスダックは最高値を更新しました(この日の高値は19,436)。このことは、19,366(11/11 高値)からの⑥波は18,598(11/15 安値)を以て終了し、そこからは◎波による上昇が進行中との見方を強めました。

◎波の上値メドとしては、8月と11月の高値同士を通る、上値抵抗線が参考になるでしょう。今のところ上値抵抗線は19,727に位置しています。

なお今回新たに追加した見方によれば、15,708(8/5 安値)からの上昇パターンは[ダイアゴナル]です。これによると、18,598から最終上昇第(v)波とであり、それはまもなく終了するでしょう。今後18,598を下抜くと、ダイアゴナル完成とみることができ、15,708へ向けた急落となるでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

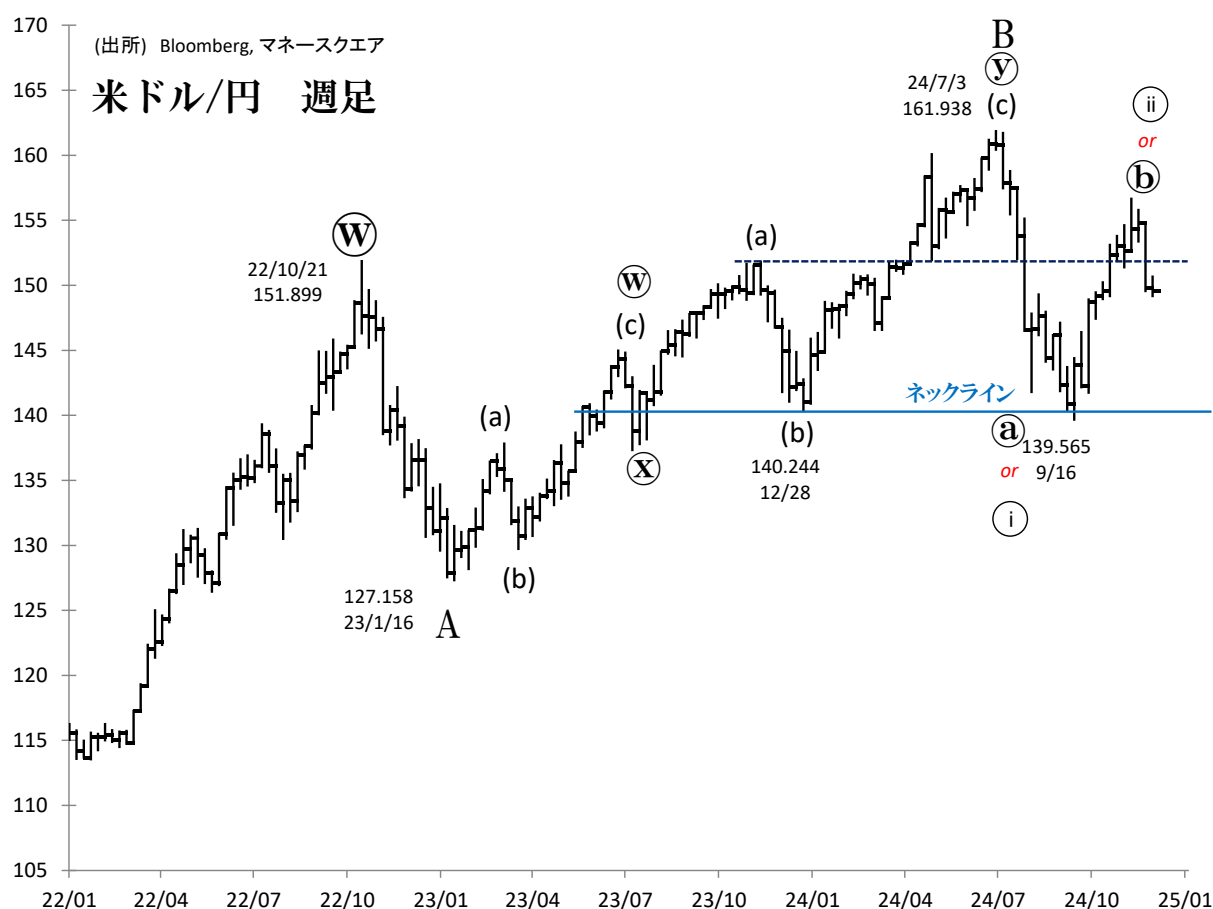
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお 24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

12 月中、①の水準は 135.400 円に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。12 月を通じ、②の水準は 115.520 円となっています。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。C 波の長さは A 波と同等か、フィボナッチ比率関係を反映します。

[137.197 円]…A 波の長さ(24.741 円)=C 波の長さ

[131.358 円]…A 波の長さ×1.236=C 波の長さ(30.579 円) (※)この時点でドル/円は月足サポート①を明確に下回り、以下の水準を目指す可能性が高まります。

[127.745 円]…A 波の長さ×1.382=C 波の長さ(34.192 円)

[121.907 円]…A 波の長さ×1.618=C 波の長さ(40.030 円)

23 年後半からのチャートパターンは、140 円処をネックラインとする『ヘッド・アンド・ショルダーズ(三尊天井)』とみられます。今後ネックライン割れをきっかけに、ドル安・円高の流れが強まると想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

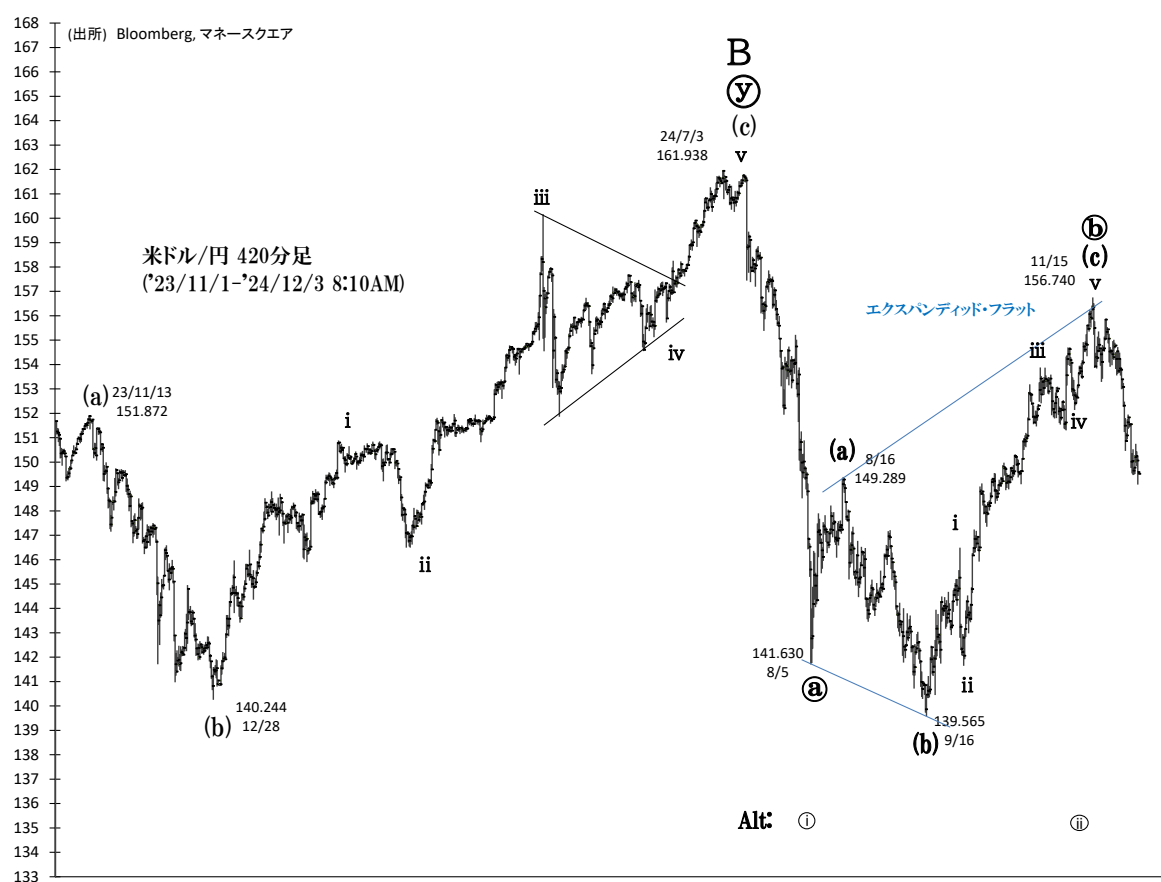
156.740 円(11/15)以来、©波の下落基調(ドル安円高)が進行中とみられます。25 年に©波は、139.565 円(9/16)を大きく下抜くでしょう。

【時間足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)からの「エクспанディッド・フラット」による⑥波リバウンドは、156.740 円(11/15)で終わり、そこから©波によるドル安円高トレンドに入ったと可能性が高い、とみています。

[148.152 円]が目先サポートレベルです。これは 9 月以来のドル/円上昇の半値押し水準です。

例年 12 月はドル安が進みやすい月であり、年末までに[146.125 円](61.8%押し)を打診する展開もありそうです。



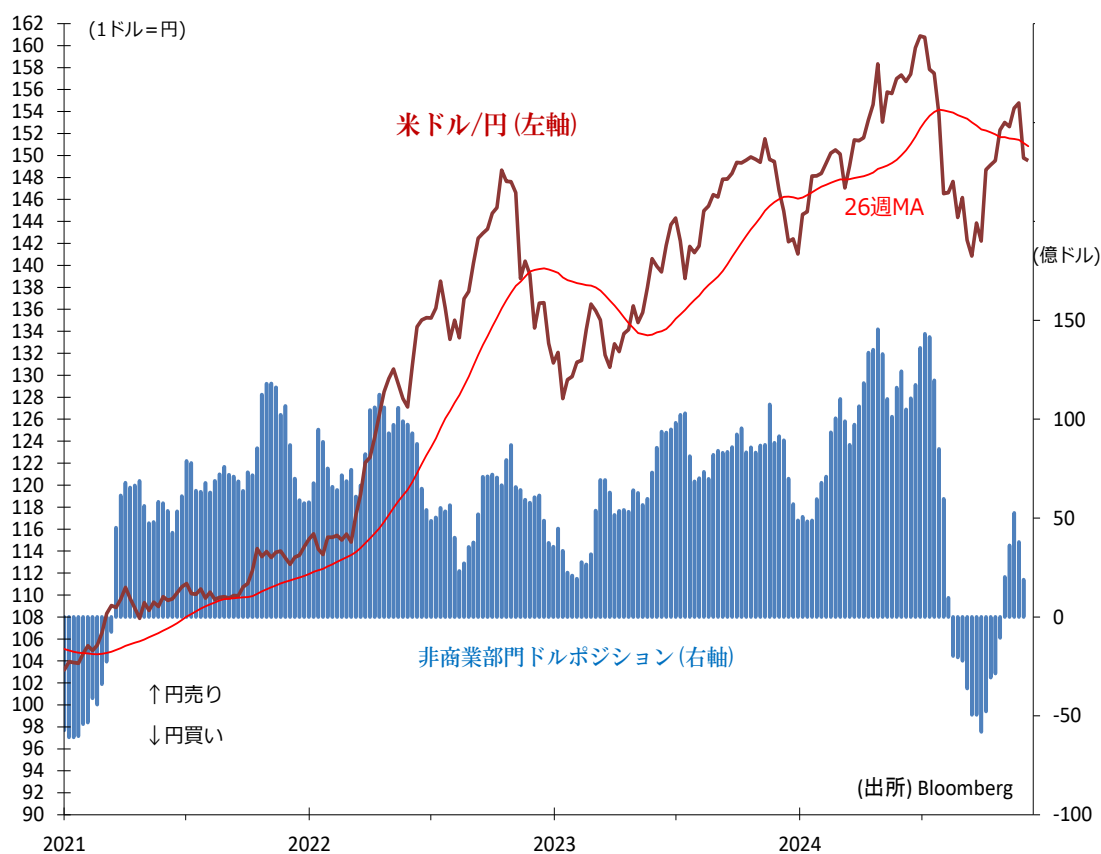
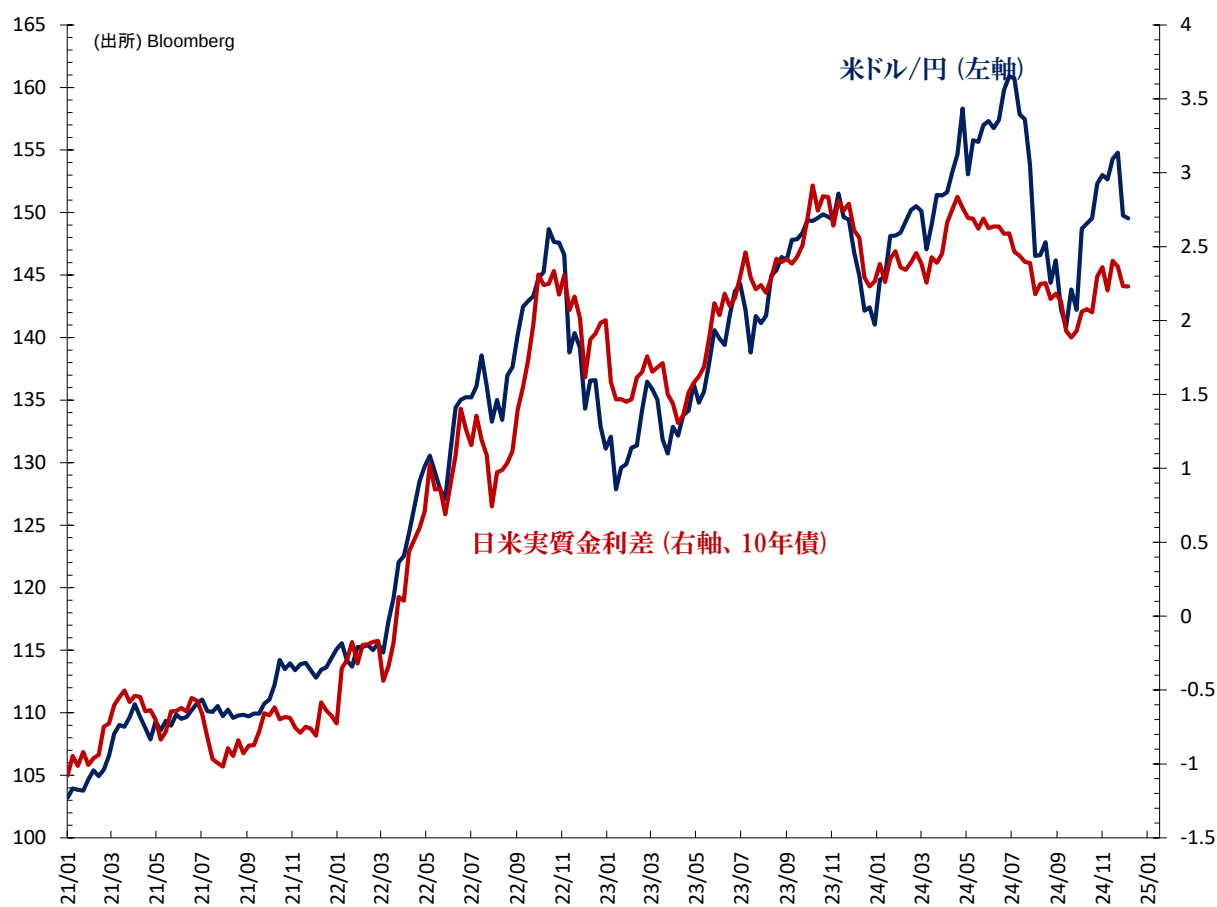
金利差からのドル/円推計値

日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.84 円]。ドル/円は推計値より大きくかい離していましたが、かい離は是正されつつあります。

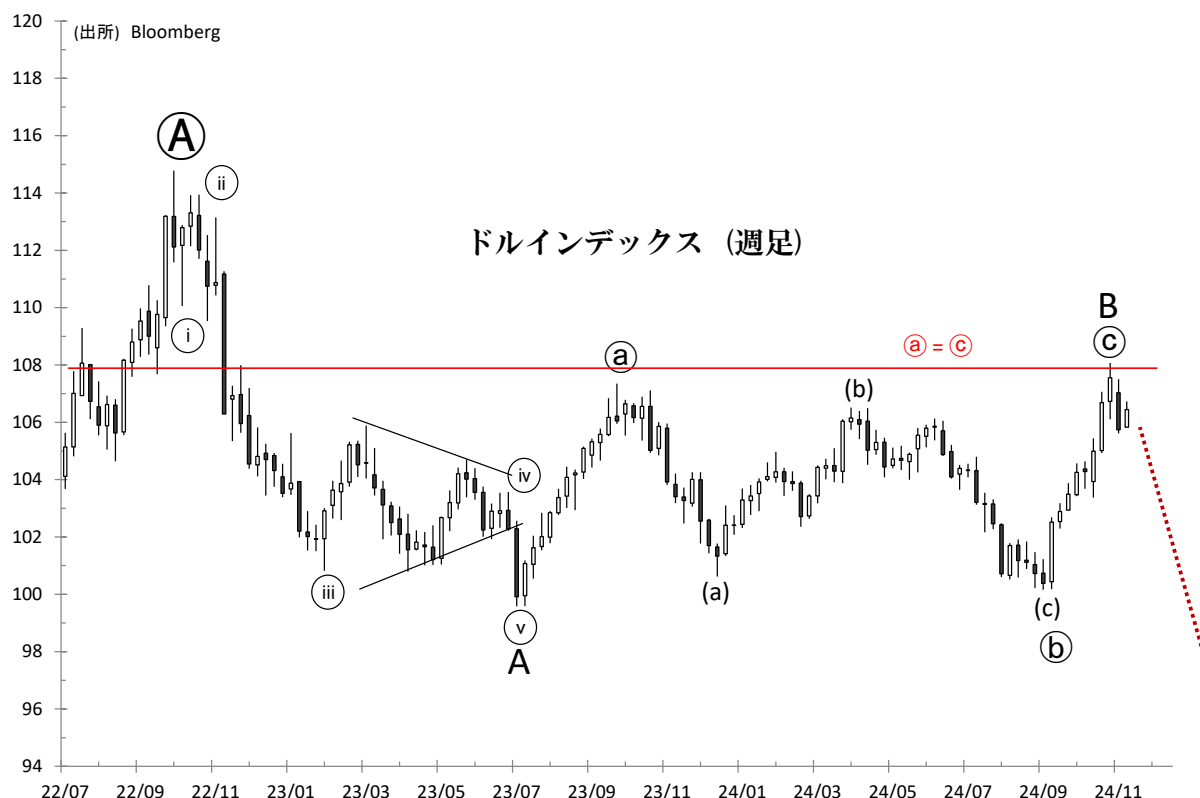
投機筋の円売り持ち高は 2 週連続で縮小(11 月 26 日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)による円売り持ちは、前週の 37.9 億ドルから 18.9 億ドルへ 2 週連続で減少しました。

ドル/円は 26 週 MA(150.85 円)を今や明確に割り込んでおり、それをトリガーに、**投機筋は今後さらにドル売り・円買いを強める可能性があります。**



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)はⒷ波(A-B-C)による下落局面にあります。

23 年 7 月安値(99.578)以来続いてきた、「[フラット](Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)」による B 波は、108.071(11/22)を以て完成した可能性が高い、とみています。

例年 12 月はドル安傾向が強い月として知られ、今年も年末に向けドル安が強まるかもしれません。

C 波によるドル安が始まった、とすれば 25 年には 23 年安値[99.578]を大きく下回るでしょう。

Ⓑ波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、Ⓐ波のレサラー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
